

# 国際的リーダー育成

## 東大院新領域 創成科学研究科 横断教育を開始

来年度から

す。企業でUR Aに似た仕事に従事する研究マネジメント人材との交流や議論の場を設定して、未経験者にUR Aとして必要なスキルを習得させる。他大学のUR Aを巻き込んだり、産学間でUR A人材の流動化を促すことも後押しする。

UR Aは、大型研究プロジェクトの企画・運営・成果活用を手がける研究者支援の専門職だ。大

東京大学大学院新領域創成科学研究科は2014年度から、データ抽出や研究ストレスマネジメント、英語での議論などの手法からなる横断教育を始める。理工系の国際的リーダーを育てる大学院教養教育と位置づけ、夜間・土曜の集中講

義などで学年約400人全員の受講を目指す。全員の国際教育も目指す。柏国際力レッシュ構想の一環で推進する。

東大柏キャンパス(千葉県柏市)の同研究科は東大以外の学部出身者が3分の2を占めている。他大学の出身者が多い場

研究室の専門とは異なる共通基盤的な教育プログラムを整備する。ストレスマネジメント

外部講師の元で筋道立てた自己表現や英語による議論の訓練を受け、一流外国人研究者の講演後の議論で実践する。駅前

# JST・朝日信金連携

## 技術移転など産業振興

S T)と朝日信用金庫(東京都台東区、小林一雄理事長、03・38833・0251)は17日、産学連携による産業振興推進で包括協定を結んだ。JSTが支援する大学・公的研究機関の成果と、朝日信金の顧客である中小企業の事業化ノウハウを結びつけ、技術移転、事業育成、イノベーション創出、支援人材の育成を後押しする。これ

3次元(3D)の立体

画像は数多くの技術があるが、東京工業大学発ベンチャー(VB)のB i 2ビジョンは、張曉林会長(元東工大教授)によるロボットと生理学の2分野融合が特徴だ。創業期が3D映画ブームだったことから各種3D撮影システムを事業化している。

# 飛躍できるか 大学発VB

◇13

# 両眼運動制御の立体視技術

眼の角度の差(視差)で、左右の見え方が違うために起こる。両眼角度に合った映像を撮影・再現することで、人間の脳が立体と認識する仕組みだ。両眼は対象物が遠ければ

は運動し同方向に動くが、近ければ左右が寄るなど精密に協調する。「この両眼運動制御モデルを入れたロボットビジョンが当社の基本だ」と

久保川俊彦常務は説明する。張会長が医学部助教

発。アルゴリズムを実装したコントロールボックスが同社の知的財産の塊だ。これを使った撮影画像の3Dでは、鑑賞者の頭が痛くなる弊害が抑えられるとい

う。立体感、人の目幅(基線長)約6.5センチでは5-10センチの開発したドラマ・映画3D撮影システム

現在、狙うのは安全性確保のため移動体との距離の正確な測定が必要となる自動制御システムだ。自動車やフォークリフト、介護ロボットな

ど、これまでとは違う大きな新市場に乗り出す計画を練っている。3Dの立体視は左右の目が離れており、奥行きのある物体を見た時の両

# B i 2ビジョン

## プロフィール

▶設立=09年8月▶所在地=横浜市緑区長津田町4259の3▶電話=045・985・4561▶大学との関係=張会長が元東工大教授で、社員の多くが研究室出身者▶資本金=8540万円▶主な出資者=張会長ら個人▶売上高=約1億5000万円、ただし開発委託費が中心



両眼運動制御の立体視技術を開発したB i 2ビジョンの撮影システム

用システム

安全性向上に生かすこと

# 科学技術・大学

子(編集委員・山本佳世) (隔週水曜日掲載)